

香川県知事

はま
だ
けい
ぞう
浜田 恵造



聞き手
西日本放送アナウンサー
宮宇地 美穂

香川大学長

いち
い
まさ
ひ
こ
一井 眞比古

特別
SPECIAL
対談

元気・安心・夢と希望あふれる香川のために
香川大学ができること

2 010年に知事に就任した浜田知事は、「元気の出る香川づくり」「安心できる香川づくり」「夢と希望あふれる香川づくり」の三本柱を中心とする施策を推進しています。香川大学はそんな香川県との間で協力関係を築き、研究や共同開発などを進めています。新しい年、新しい香川の未来のために、香川大学が貢献できることは？浜田知事と一井学長が語りあいました。

「元気の出る香川づくり」に、
香川大学の知恵と技術を

知事 知事は「元気・安心・夢と希望あふれる香川」を掲げていらっしゃいますが、香川大学に対してこの点からどのような期待をされていますか？

学長 まずは新規産業の創出です。たとえば香川大学には今後の発展が期待される希少糖や、微細構造デブイスなどのナノテクノロジーという先進的研究がありますね。血糖値の上昇を抑制する作用がある希少糖のD-ブシコースはトクホの認可申請もなされたそうですし、県外企業の甘味料製造工場の誘致という大きな成果も生まれました。県と企業が共同で設置した大学内の糖質バイオ寄附研究部門でも、企業との連携が新商品開発にも繋がっていると聞いています。引き続き中核的な役割をお願いします。

知事 頼もしいお話ですね。微細構造の分野では、高度な技術者を養成する「源内ものづくり塾」を香川大学が中心となって行っていますね。他にも農林水産業ではオリブハマチのブランド化やキウイフルーツの新品種のご協力をいただいています。中でも学長に協力いただいていた開発した黒大豆の新品種「香川黒1号」は粒が大きく、形も揃っていると非常に評判なんです。今後とも、農産物の品質向上などにご協力いただきたいです。

学長 キウイといえば実は一時期、北半球でキウイの品種改良をしているのは香川県だけだったんですよ。讃岐の地には非常に大きな資源・研究成果があるのに、必ずしも世界に発信できているとは言えない状況です。今後は県と協力しながらの発信も考えていきたいですね。



香川県知事
浜田 恵造

香川大学長
一井 眞比古



今後とも
優秀な人材の育成機関や、
学術の研究機関としての
機能を発揮していただきたい



国際的な役割はもちろんのこと、
地域の知の拠点としての機能を
より高めることに尽力します

医療・防災面の連携で「安心できる香川」づくり

— 医療など「安心」面での連携はどうでしょう？

知事 昨年11月には一井学長と、地域医療教育支援センター設置の協定を締結させていただきました。香川大学が開発した香川遠隔医療ネットワーク(KI-MIX)も利用して、ぜひ今後も地域医療の連携体制にリーダーシップをとっていただきたいですね。

学長 地域医療教育センターは、学生から医療専門医、医師の生涯教育などの幅広い機能を持つ、新しい人材養成のあり方だと思います。

KI-MIXについては、医療情報の世界標準をこの香川から発信するという夢を持っています。

— 香川県は比較的災害が少ない土地ですが、地震などの防災の部分も気になります。

学長 香川大学では2年ほど前に危機管理研究センターを立ち上げ、地域の方と防災マップを作りながら人材養成の支援も行っています。今後もこのセンターを中心に県と協力していきたいですね。

香川県と世界が求める人材育成

— いずれの分野も「人づくり」が課題になっていますね。どんな人材が未来の香川県に求められるのでしょうか？

知事 人材育成は非常に大切だと考えています。「元氣の出る香川」の源は人です。香川県は次世代のものづくり産業の育成に力を入れていますから、魅力ある商品が創れる人、国際競争力のある企業で活躍できる人、成長分野で個性・創造性を発揮し、先導的役割を果たす人材の育成に期待しています。新しい産業やビジネス・文化を生み出す力をぜひ大学から発していただきたいですね。

学長 はい、人材育成は大学の使命です。人材養成には、世界に通用する人材の養成と、地域に貢献する人材の養成の2つの側面があるのではないのでしょうか。特に地域の要請に応える

人材養成というのは、たとえば経済学部が直島でやっているカフェのように、我々自身が地域に出て課題を見つけ、それを教育の場に活用していくというのが1つの方法でしょう。地域と連携しながらの研究・教育を行うことは、最終的に地域のことを深く考える人材の養成になると思います。

知事 もう1つ大事なお願いをしたいのが、県内で唯一の医師養成機関である医学部についてです。全国的な医師不足は本県も例外ではありません。地域だけでなく県内でも医師の数が偏りがあり、さらに診療科ごとにも偏りや不足があるという問題に、ぜひ医学部の力をお貸しいただきたい。香川県も「卒業した後も香川で働いていただく」約束で修学資金を貸し付けています。こうした

地域枠の医学生をはじめ、地域医療に従事する人材の育成と定着の取り組みをぜひお願いいたします。

学長 香川大学医学部では卒業後臨床研修支援制度などの充実を図り、医学部卒業後も香川で医療を支える人を増やすべく努力を重ね、成果もあがってきています。いま大学には、医師不足の問題だけではなく看護や健康管理など医療全体で見たさまざまな課題にも応えていくことが求められています。県と医師会と私たちの連携から新しい成果を出したいと思っています。

— さらなる地域活性化のために、香川大学にどのような役割を期待していますか？

知事 東京や関西は大学の集積が厚く、本県の人材もまだまだそちらに流れてしまうこともありますので、ぜひ、県内の若者が香川大学に進学する選択肢を広げ、国際化等にも対応できる人材を県内で育てていただきたいですね。一方で社会人の学び直し・生涯学習のニーズも年々高まっています。大学の役割は今後さらに広がっていくのではないのでしょうか。

学長 香川県では1年間に高校を卒業して大学へ進学するのは大体4500人で、香川大学に入るのはそのうち300人程です。学生の約25%が香川出身者なんです。一方で少子高齢化社会、グローバル化が進むいま、幅広い地域と世代を対象にした大学のあり方も考えなければいけません。香川大学には国際的にも先進的な研究をする「ナショナル

センター」としての機能と、大学の知を地域に役立てる「リージョナルセンター」としての2つの機能が必要だと考えています。その地域貢献のひとつとして、社会人教育はますます重要になると考えています。地域マネジメント研究科のような「地域の中心となる方にもう一度大学で勉強してもらい、また社会に帰って活躍していただく」という仕組みは、まさに「元氣の出る香川」に役立つと確信しています。多くの社会人に大学に来て学んでいただきたい。今日はこれからの大学の1つの方向性を示唆いただいたと思いますので、今後も「地域に根ざした学生中心の大学」という理念をかがけ、生涯教育についてもさらに考えたいと思います。今後ともぜひ連携をお願いします。

知事 こちらこそぜひよろしくお願いします。香川大学には地域社会への貢献に積極的に取り組んでいただけて本当にありがたく思っています。より一層の飛躍、発展を心から願っております。また、香川県にはシェアナンバーワンやオンラインワンの元氣な企業が多数あります。香川県では就職活動情報サイト「Jobナビかがわ」などでそういった情報が届くように努めており、地元で学んだ学生さんにぜひ県内で就職していただきたいと願っています。これからも香川大学と一緒に、さまざまな面で連携を深めていきたいですね。ありがとうございました。